

平成30年度青少年活動交流センター事業評価表

区分	No.	事業名	目的	事業概要(期日、参加者、内容等)	事業評価				総合評価	今後の事業方針						
					必要性(30)			達成度(30)			効率性(30)			その他(10)		
					①必要性・優先度	②県民のニーズ	③代替可能性	①数値目標			②満足度	③周知・理解	①費用対効果		②計画どおりか	③負担はないか
(1) 活動	1	いわて親子・家庭フォーラム	青少年の健全な育成・成長に果たすべき第一義的な責任は、家庭・保護者であり、家庭における対話やふれあいが重要であることについて啓発するとともに、地域全体で子育てを行う機運を醸成する。	子育て、家庭教育、親子の対話等をテーマとする講演を中心とするセミナー及び親子や家族で楽しみ、ふれあいを深めるイベントを開催。 (1) 子ども・家庭・地域に関する交流セミナー ※釜石市PTA連合会研究発表大会・釜石市教育振興運動協議会集約集会併催 ・期日・会場:平成31年2月2日(土)沿岸広域振興局(釜石地区合同庁舎) ・参加者:PTA、学校教育・社会教育関係者等 108名 ・内容:活動発表、パネルディスカッション	B(20) ①:10 ②:10 ③:0	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【実績】108名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(40千円)		B(80)	県民のニーズに対応した内容により継続して実施する。						
				(2) いわて親子フェスティバル ※県民活動交流センターの協力を得て実施。 ・期日・会場:平成30年10月8日(月・祝) ・親子等 5,682名、青年ボランティア 96名、出演者・協力者 78名 ・内容:工作教室・ショー、親子エコクッキング、体験コーナー ※ 青少年ボランティアによる企画会議(5回)及び実行委員会(3回)の開催など事業を通じた研修や交流を行った。	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】4,100名 【実績】 5,682名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(592千円)		A(90)	アイーナ入居団体等と連携・協働して、引き続き親子で参加できるイベントとして継続して実施したい。						
	2	青少年健全育成のための地域による情報メディア対応促進事業	青少年のインターネットやスマートフォン等の利用が増え、有害情報で被害を受けたり、ネット上の誹謗、中傷、いじめなど青少年の健全育成上様々な課題が生じていることから、情報機器の正しい利用について地域での主体的な取組を促進し、青少年の健全育成を推進する。	(1) 情報メディア対応力養成講座(4地域) 県北地区(二戸市11/1)、県央地区(紫波町11/7)、県南地区(花巻市11/29)、沿岸地区(釜石市11/30) 合計(4回)127名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】4地区 【実績】 4地区	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(2千円)		A(90)	ニーズに対応した内容により継続して実施する。 「出前講座」の講師等を担える情報メディア対応ボランティアの育成等について関係団体と検討していきたい。						
				(2) 情報メディア「出前」講座(30回) ※2月末現在 小学校、中学校、高等学校、PTA、公民館等 延べ3,171名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】出前5回 【実績】 出前30回	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(0円)		A(90)							
(3) 情報メディア対応指導者養成研修会(情報メディア対応サポーター育成セミナー) 平成30年7月21日(土) 講話・実機体験、グループワーク 参加者:PTA、教育関係者、青少年育成団体等 15名				A(30) ①:10 ②:10 ③:10	B(20) ①:0 ②:10 ③:10 【目標値】30名 【実績】 15名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(105千円)		B(80)								
		(4) 情報メディア対応機関連絡会議 最新のネット上の課題、相互の連携の在り方等についての協議・意見交換等 平成30年5月21日(月)岩手県庁総合教育センター、少年センター等 9名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	B(20) ①:10 ②:0 ③:10 【実績】1回 相互連携の在り方等について十分な協議ができていない。	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(0円)		B(80)									
(2) 交流	3	いわて希望塾	市町村の枠を越えた交流活動や「本格復興」についての意見交換などからの学びにより、自らと地域を見つめ直し、積極的に岩手の地域づくりを担おうとする、心豊かで意欲に満ちた人材を育成する。	中学生を対象とし、集合研修(合宿研修)を通じ、積極性、協調性を養成するとともに、地域づくり活動に関わるプログラムを各市町村と連携して実施することにより、継続的な地域づくり活動への参画を促した。 平成30年11月23日(金)～25日(日)陸中海岸青少年の家(山田町) 参加者:塾生(中学生)129名・青年サポーター21名 内容:コース別学習(宮古市・山田町・大槌町・釜石市)、②テーマ別ディスカッション「未来へのヒント部屋」、③ワークショップ・グループディスカッション、④塾長メッセージ(岩手県知事)、塾長との対話、⑤ふじポンミニトークショー・対話、⑥未来への宣言(全体発表)・ふりかえり	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】塾生120名、青年サポーター20名 【実績】塾生129名、青年サポーター21名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(2,141千円)		A(90)	継続して実施することとしたい。 また、ボランティア養成も兼ね、引き続き県内5大学、専門学生等に対して、青年サポーターへの参加を呼び掛ける。						

区分	No.	事業名	目的	事業概要（期日、参加者、内容等）	事業評価				総合評価	今後の事業方針					
					必要性 (30)	達成度 (30)	効率性 (30)	その他 (10)							
					①必要性・優先度	②県民のニーズ	③代替可能性	①数値目標	②満足度	③周知・理解	①費用対効果	②計画どおりか	③負担はないか		
(3) 情報	4	青少年ボランティア活動の促進	いわて希望塾の青年サポーター等のセンター事業へのボランティア参加者が、事業の企画段階から参画するとともに、相互に交流する機会を設けることにより、ボランティア活動の活発化を促進する。	期日:通年 内容:観武が原祭(6名)、いわて希望塾サポーター(21名)の事前打合せ、いわて親子フェスティバルのボランティア(96名)による企画会議(5回)及び実行委員会(3回)の開催など、事業を通じた研修や交流を行い、ボランティア相互のネットワーク形成の機会を設けた。 ・参加者:県内に在住する概ね16歳～30歳の青少年、年間登録ボランティア(96名)を含め 延べ 523名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	【実績】 延べ523名参加	人件費を除く費用 (40千円)		A(90)	継続して実施すること としたい。 募集の働きかけを強 めるとともに、事業を通 じた研修の実施やボラ ンティア相互のネット ワーク形成など、内容 を充実させて実施する こととしたい			
	5	青少年健全育成広報事業	青少年健全育成の県民運動を推進するため、県民に対する青少年健全育成の意識啓発を図る。	青少年活動交流センターにおける各種事業の実施や青少年育成活動の先進的取組み等に係る様々な情報について、広報活動を行った。 (1)一般広報事業 ① 広報紙「青少年いわて」(各号2,200部、9月、12月、3月) 広報紙「アイナインフォメーション」12回(毎月1回) ② インターネットによる広報(http://www.aiina.jp/seishounen/) アクセス数36,455件、情報発信日数:176日、ツイッターフォロワー713名、フェイスブック友達138名(平成31年2月末日現在) ③ 青少年健全育成県民運動啓発用、「いわて家庭の日」啓発用 電子版「いわて家庭の日」各市町村等 12回(毎月1回) ④ 啓発活動 いわて家庭の日・相談室PRカード配布300部 ⑤「わたしの主張岩手県大会」発表文集 1,000部(配布先:市町村教育委員会、全中学校等) ⑥「いわて希望塾」事業報告書 300部(配布先:市町村教育委員会、参加中学校等)	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	【目標値】 ホームページアクセス件数:35,000件、情報発信日数:180日 【実績(2月末日現在)】 ホームページアクセス件数:39,645件、情報発信日数:200日	人件費を除く費用 (190千円)		A(90)	ホームページの内容 を充実させ、継続して 実施することとしたい。			
(4) 相談	6	相談事業  (1)青少年なやみ相談室の運営	青少年やその家族等が抱える様々な問題等の解決に資するため、青少年及びその家族等からの相談に応じるとともに、青少年活動に関する情報提供を行う。	非常勤の相談員3名により、青少年の悩み、青少年を取り巻く家族等の悩みや青少年活動に関する電話、面接及びメールによる相談を行った。  電話相談:件、面接相談:件、メール相談:件 合計490件(平成31年1月末日現在)  相談時間 9:00～16:00(月・木のみ9:00～20:00)	①:10 ②:10 ③:10	(事業実施中)	①:10 ②:10 ③:10	【目標値】 相談数360件 【実績(2月末日現在)】 540件	人件費を除く費用 (464千円)			継続して実施すること としたい。 引き続き、相談室の 周知のため、中・高校 へのPRを行うほか、保 護者の需要に対応する ためPTA連合会等の協 力を得て保護者への周 知を図る。			
	(2)青少年相談事例検討会の開催	県内の関係相談機関における相談事例の検討を行うことにより、相談関係者の指導力の向上及び相談関係機関の連携の推進を図り、青少年の健全な育成に資する。	相談員間の事例に関する情報共有及び事例検討の機会を確保するとともに、相談スキルを向上させるため、他相談機関の相談職員をも対象とした事例検討会を行った。 ○第1回 平成30年9月25日(火) アイナ5階 501B会議室 講演「ひきこもり支援について考える」(岩手県立大学社会福祉学部 准教授 川乗 賀也 氏)、グループトーク 参加者:相談機関の相談関係者等41名(盛岡少年鑑別所、県警本部少年課、県福祉総合相談センター、盛岡市少年センター、岩手県国際交流協会等) ○第2回 平成31年1月11日(金) アイナ7階 701会議室 参加者:相談機関の相談関係者等19名(盛岡少年鑑別所、県警本部少年課、県福祉総合相談センター、もりおか若者サポートステーション等)	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	【実績】60名	人件費を除く費用 (3千円)		A(90)	継続して実施すること としたい。 実施に当たっては、 事例検討による相談対 応能力を向上させるほ か、相談機関相互の連 携を図ることにより相談 体制の強化を図る。				

区分	No.	事業名	目的	事業概要（期日、参加者、内容等）	事業評価				総合評価	今後の事業方針					
					必要性 (30)	達成度 (30)	効率性 (30)	その他 (10)							
					①必要性・優先度	②県民のニーズ	③代替可能性	①数値目標	②満足度	③周知・理解	①費用対効果	②計画どおりか	③負担はないか		
(5) 自主事業	活動	7	青少年体験講座	青少年の職業観や社会性を養い、職業や社会の仕組みに関する理解を深めるための「お仕事発見ツアー」や、高齢者など異世代との交流・体験活動の機会を提供。	青少年等を対象に親子のふれあい、食、マナー等をテーマとする体験講座「親子料理教室」を実施。  ○親子料理教室 3月2日(土) アイーナ6階調理実習室 参加者:親子10組25名、ボランティア:3名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	【目標値】10組 【実績】10組	人件費を除く費用(6千円)	A(90)	アイーナ入居団体等と連携・協働して、引き続き親子で参加できるイベントとして継続して実施したい。			
		8	社会生活に困難を有する子ども・若者支援に関する公開講座	社会生活を営む上での困難を有する青少年の現状や支援方法について、専門家による基調講演や関係団体代表等による事例検討会などを内容とする公開講座を開催し、今後における「子ども・若者支援」の推進に係る機運の醸成と県民への啓蒙を図る。	現代の大きな社会的課題である不登校・ひきこもり・ニート等の社会生活を円滑に営む上での困難を有する子供・若者への支援について、保護者や教育関係者、支援機関関係者等を対象として公開講座を開催した。  ○第1回 8月25日(土) アイーナ 参加者51名 発達障害とペアレントトレーニング 社会福祉法人新生活会 みちのく療育園 副施設長 川村 みや子 氏 ○第2回9月1日(土) アイーナ 参加者38名 ペアレントトレーニング体験講座 NPO法人「紫波さふり」 代表 細川 恵子 氏 臨床心理士 樋渡 朗子 氏 ○第3回 9月17日(月) アイーナ 参加者 39名 ○第4回 2月20日(水) アイーナ 参加者 54名 発達障害を抱える子どもとのすてきな向き合い方～講話と体験～国立障害者リハビリテーションセンター 発達障害情報・支援センター 発達障害支援推進官 加藤 潔 氏	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	【実績】366名	人件費を除く費用(358千円)	A(90)	継続して実施することとしたい。 実施に当たっては、機関相互の連携の強化を図る。			
		9	国際理解・協力推進事業(国際交流シンポジウム)	国際的視野と国際協調の精神を身につけた青少年を育成する。	内閣府青年国際交流事業の紹介、国際交流事業に参加して感じたことなどを語るフォーラム及び県内青少年との交流会を開催した。  平成31年3月予定 場 所:西和賀町 参加者: 内 容:内閣府青年国際交流事業の紹介、グループトーク、交流会	(事業実施中)				A(90)	継続して実施することとしたい。 県民のニーズに対応した内容により実施する。				
	交流	10	災害復興支援事業 復興バザー	東日本大震災の被災者支援及び県民とアイーナの絆づくりを行う。	ボランティアの参加(売り子等)を得て、アイーナ入居の各センター連携事業として実施した。  内容:アイーナ4階県民プラザにおいて、アイーナブース(アイーナ職員供出物品の販売)を設置、個人・福祉施設出店、被災地からの出店販売 第17回 平成30年6月16日(土)参加者約500名(売上金額 125,474円) 第18回 平成30年10月8日(月)参加者約500名(売上金額 58,430円) ※ なお、バザーの売上金183,904円は、その全額を岩手県災害義援金募集委員会、日本赤十字社に寄附	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	人件費を除く費用(0円)	A(90)	継続して実施することとしたい。 売上金額が減少していることから、周知をさらに図る。				
	情報	11	青少年関係情報データベース事業	青少年に関わる情報について、県や市町村、青少年関係団体等が常に最新の情報を共有し、相互に連携の執れた事業展開がなされるよう、健全育成、保健福祉、教育、非行防止等の各部門がそれぞれ独自に保有する様々なデータや各種資料等を一括して収集、整理・分類等を行い、ホームページ上にデータベースを構築して、青少年の育成支援に関する情報の総合的な提供を行う	青少年に関わる情報について、県や市町村、青少年関係団体等が常に最新の情報を共有し、相互に連携の執れた事業展開がなされるよう、健全育成、保健福祉、教育、非行防止等の各部門がそれぞれ独自に保有する様々なデータや各種資料等を一括して収集、整理・分類等を行い、ホームページ上にデータベースを構築して、青少年の育成支援に関する情報の総合的な提供した。	(事業実施中)				A(90)	継続して実施することとしたい。 県民のニーズに対応した内容により実施する。				